

I

本学の概要

I 本学の概要

II 学修の進め方について

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程



建学の精神

パックス ムンディ ペル リングアス
PAX MUNDI PER LINGUAS

— 言語を通して世界の平和を —

本学が京都外国語学校として創立された1947年（昭和22年）5月、終戦後間もないこの当時に何よりも求められたものは世界の平和であり、その基盤としての国際的理解でした。そして、この国際的理解を図るための外国語をマスターし、その文化・経済・社会に熟知した人材の育成は急務でした。

しかし、我々日本人が外国語を身につけることは、日本語の独特な構造が一種の妨げとなり、更には我が国特有の歴史に由来する伝統と習慣とがいよいよ外国語の修得を容易でないものになっています。つまり、島国に住む我々が一つの外国語をマスターするには、国境を接する国と国との間における外国語修得とは比較にならない困難さを伴うわけで、これに必要なものは、才能にもまして強固な意志と不断の努力であると言えます。

本学の建学の精神である“PAX MUNDI PER LINGUAS”（言語を通して世界の平和を）とは、世界平和達成への創立者の強い願いが込められており、創立以来、「不撓不屈」を教育・研究の基本精神としているのは、外国語を専攻する者にとって不断の努力が何よりも重要だからです。

■ シンボルマーク



本学は、建学の精神である“PAX MUNDI PER LINGUAS” — 言語を通して世界の平和を — の達成を願い、この精神を体得し、卒業後もこの精神で不断の努力を惜しまぬ学生の育成をめざしています。シンボルマークは、地球の中に建学の精神を掲げ、育成された学生が、平和の使者として世界にはばたく姿を白い鳩で表したものです。

教育理念

本学の教育理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」です。本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことです。

教育目標

大 学

- ① 学問に裏付けられた実践的な複言語運用力
- ② 世界平和のための社会性と対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

短期大学

- ① 確かな日本語力と実践的な英語運用力
- ② 世界平和のための社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び外国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

沿革

1947年(昭和22年)5月	京都外国語学校を創立
1950年(昭和25年)4月	京都外国語短期大学を設置 京都外国語短期大学英語科(昼間部)を開設
1952年(昭和27年)4月	京都外国語短期大学英語科第二部(夜間部)を開設 京都外国語短期大学英語科に教職課程を開設
1956年(昭和31年)4月	京都外国語短期大学英語商業科(昼間部)を開設 京都外国語短期大学専攻科(昼間部)を開設
1959年(昭和34年)3月	京都外国語短期大学英語科(昼間部)を廃止 京都外国語短期大学英語商業科(昼間部)を廃止 京都外国語短期大学専攻科(昼間部)を廃止
4月	京都外国語大学を設置 京都外国語大学外国語学部英米語学科を開設 京都外国語大学に教職課程を開設
1963年(昭和38年)4月	京都外国語大学外国語学部イスパニア語学科を開設
1964年(昭和39年)4月	京都外国語大学外国語専攻科英米語専攻を開設
1966年(昭和41年)4月	京都外国語大学外国語学部フランス語学科を開設
1967年(昭和42年)4月	京都外国語大学外国語学部ドイツ語学科・ブラジルポルトガル語学科を開設
1971年(昭和46年)4月	京都外国語大学大学院(修士課程)を設置 京都外国語大学大学院(修士課程)外国語学研究科英米語学専攻・フランス語学専攻・ドイツ語学専攻・ブラジルポルトガル語学専攻を開設
1972年(昭和47年)4月	京都外国語大学大学院(修士課程)外国語学研究科イスパニア語学専攻を開設 京都外国語大学大学院に教職課程を開設
1974年(昭和49年)4月	京都外国語大学外国語学部中国語学科を開設
1977年(昭和52年)4月	京都外国語大学に図書館司書・学校図書館司書教諭課程を開設
1980年(昭和55年)4月	京都外国語大学留学生別科を開設
1982年(昭和57年)3月	京都外国語学校を廃校
1989年(平成元年)4月	京都外国語大学に博物館学芸員課程を開設
1992年(平成4年)4月	京都外国語大学外国語学部日本語学科を開設
1997年(平成9年)4月	京都外国語大学外国語専攻科東アジア言語・文化専攻を開設
2000年(平成12年)3月	京都外国語短期大学英語科の教職課程を廃止
2004年(平成16年)4月	京都外国語大学外国語学部イタリア語学科を開設
2005年(平成17年)4月	京都外国語大学大学院外国語学研究科 異言語・文化専攻 博士前期課程・後期課程を設置
2006年(平成18年)3月	京都外国語大学外国語専攻科を廃止
2007年(平成19年)3月	京都外国語大学大学院(修士課程)外国語学研究科英米語学専攻・イスパニア語学専攻・フランス語学専攻・ドイツ語学専攻・ブラジルポルトガル語学専攻を廃止
4月	京都外国語大学外国語学部イスパニア語学科をスペイン語学科に改称 京都外国語短期大学英語科をキャリア英語科に改称
2010年(平成22年)4月	京都外国語大学外国語学部国際教養学科を開設
2018年(平成30年)4月	京都外国語大学国際貢献学部グローバルスタディーズ学科・グローバル観光学科を開設
2020年(令和2年)4月	京都外国語大学外国語学部ロシア語学科を開設
2023年(令和5年)3月	京都外国語大学外国語学部国際教養学科を廃止

京都外国語大学 学歌

作詞 小牧健夫
作曲 松平頼則

明るくおおらかに



一 鴨川の
ふち瀬変れど永久なれや
道義の力真理の光
われら正しく世に生きて
学の道にいそしまん

二 異国の
言葉の林分け入りて
世界に交わる道を拓き
われら四海の同胞と
平和の礎ともに築かん

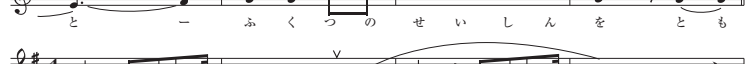
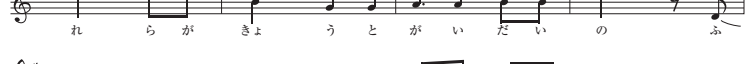
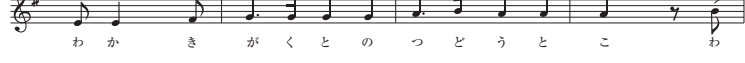
三 こころざし
愛宕の峰の高くおき
思いは嵯峨野の月と清く
われらの行く手けわしくも
路ひとすじに踏み迷わじ

四 西山に
日はかげろえど旦また
比叡の嶺染むる朝明の光
われら希望を失わず
かがやく勝利いざかちとらん

京都外国語大学 応援歌

作詞 伊藤督郎
作曲 林 二郎

♩=120



語学の道にいそしめる
若き学徒の集うところ
われらが京都外大の
不撓不屈の精神を
友よ今こそ示すのだ

お、見よ王者の貫禄を
お、聞け覇者のこの叫び
やあ！ われらが母校
栄えある母校 京都外大
外大 外大 京都外大

世界をつなげ若人よ
榮譽の旗ぞひるがえる
われらが京都外大の
不撓不屈の精神を
友よ今こそ示すのだ

お、見よ王者の貫禄を
お、聞け覇者のこの叫び
やあ！ われらが母校
栄えある母校 京都外大
外大 外大 京都外大

京都外国語大学 **ディプロマ・ポリシー** (卒業認定・学位授与に関する方針)

外国語学部

外国語学部は専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としています。

その実現のために、①**高度な語学力**、②**社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力**、③**京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力**の3つのミッションを修得することにより、下記に示すとおり、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を育成することを教育目標にしています。

「構想するために必要な力」

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する(問題発見力・解決力)にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い(思考力・判断力)、創造性あふれる企画をまとめる(創造力・企画力)ことができます。

「実践するために必要な力」

自ら提案をまとめ(主体的に取り組む力)、必要な情報を取捨選択して分析し(情報収集力・分析力)、計画的に実行に移す(計画力・実行力)ことができます。

「共同するために必要な力」

立案した企画を効果的に発表し(プレゼンテーション力)、その重要性を相手に伝え(コミュニケーション力)、ルーツの異なる他者とともに実現していく(多文化共生力)ことができます。

学科ごとの目標は以下のとおりとし、4年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得した場合に学士(文学)の学位を与えます。

英米語学科

専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

英米語学科 ダイヤモンドコース

実社会が求める、専攻語として英語の高度な運用力と社会科学の素養を備えた「京都」の精神の継承者として日本と世界をつなぐ存在となり、世界が直面する諸課題に対して、学問に裏付けられた解決策を自律的に立案し、他者と共同して社会実装を達成する力を備えた人材を育成することを目的とします。

スペイン語学科

専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

フランス語学科

専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

ドイツ語学科

専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

ブラジル ポルトガル語学科

専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

中国語学科

専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

日本語学科

専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発信・伝達する力を備えた国語教師、日本語教師、日本語の専門家など幅広い人材を育成することを目的とします。

イタリア語学科

専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

ロシア語学科

専攻語としてロシア語の確かな運用力を備え、ロシア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

国際貢献学部

国際貢献学部は、社会科学の理論と実践の学修を通して、多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成することを目的としています。

その実現のために、①**社会科学の素養に基づく、高度な語学力とデジタル技術運用能力**、②**社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力**、③**京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力の3つのミッション**を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる素地を持った人材を育成することを教育目標にしています。

<p>グローバル スタディーズ学科</p>	<p>4年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に学士（国際学）の学位を与えます。</p>
<p>地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、世界の平和に貢献する新たな価値を創造する人材を育成することを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 主体的・自律的に課題に取り組む力 自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができます。 ② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができます。 ③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができます。 ④ 世界の平和を脅かす新しい諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用力 グローバルビジネスと経済学、持続可能性と国際協力といった社会科学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができます。 	
<p>グローバル 観光学科</p>	<p>4年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に学士（グローバル観光学）の学位を与えます。</p>
<p>世界の平和に貢献する、多文化共生のための活動としての観光という現象の光と影の側面を、社会科学の視点からとらえ、様々なコミュニティが直面する課題解決に貢献する人材を育成することを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 主体的・自律的に課題に取り組む力 自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができます。 ② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から観光に関わる諸問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができます。 ③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができます。 ④ 新しい世界の平和を支えるための観光をめぐる諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用力 経済学、経営学、社会学など社会科学を基盤とする学際的な観光学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができます。 	

京都外国語大学 カリキュラム・ポリシー (教育課程に関する方針)

外国語学部

外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けています。

英米語学科		英米語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的な外部の語学検定試験を受検し、語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策やキャリアと関連する英語も含め4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 英語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。また、言語としての英語の性質を理解するとともに、英語を効果的に教授する実践的な知識と技能を養います。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力 英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究（ダイヤモンドコースを除く） 	

英米語学科 ダイヤモンドコース	英米語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 2年次からの英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の高いレベルの4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。英語圏の専門留学に必要な IELTS 又は TOEFL のスコアのレベルに到達することができます。 ③ 2年次からの専門科目では、実社会で求められる社会科学の素養を修得するための必修科目として、「国際関係学」、「経済学」、「経営学」、「データサイエンス」、「会計学」を、英語又は日本語を教授言語として学びます。これらの素養は、専門留学を円滑かつ効果的に修了するために必須となります。 ④ 「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質と精神を英語で説明できるようにし、京都と世界をつなぐネットワークの一員となる素養を磨きます。 ⑤ 卒業後の進路を見据え、地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格等を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 2年次からの必修科目における英語の修得にあたっては、留学に必要な英語力獲得を目指す高度かつ実践的な英語教育を徹底します。また、卒業後の進路を見据え、実社会で必要とされる社会科学の「国際関係学」、「経済学」、「経営学」、「データサイエンス」、「会計学」を修得します。また、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信します。 ③ 「京都学」では、「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質と精神を英語で説明できるようにします。 ④ 3年次秋学期から1年間、海外協定校（英語圏）への専門留学を必須とします。 ⑤ 留学前後では、産・官・学それぞれの現場で活躍する講師を迎え、国際社会の中で求められる日本のあり方を俯瞰する姿勢を確立します。その上で京都と世界をつなぐネットワークの一員という認識の下、それぞれのキャリアで求められる素養を自律的に考え続ける能力を身につけます。 ⑥ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力 英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績

スペイン語学科		スペイン語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② スペイン語教育の必修科目においてスペイン語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、スペイン語力の習熟度を測ります。また、4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ スペイン語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域が抱える諸問題に問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるスペイン語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② スペイン語圏に関する専門知識と多文化共生力 スペイン語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 スペイン語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ②語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究 	

フランス語学科		フランス語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② フランス語教育の必修科目においてフランス語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、フランス語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ フランス語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるフランス語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② フランス語圏に関する専門知識と多文化共生力 フランス語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 フランス語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ②語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究 	

ドイツ語学科	ドイツ語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② ドイツ語教育の必修科目においてドイツ語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、ドイツ語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ ドイツ語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について、問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるドイツ語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)	① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② ドイツ語圏に関する専門知識と多文化共生力 ドイツ語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 ドイツ語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。 ①各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ②語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

ブラジルポルトガル語学科	ブラジルポルトガル語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② ポルトガル語教育の必修科目においてポルトガル語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学科総合試験によって、ポルトガル語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ ポルトガル語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるポルトガル語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)	① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② ポルトガル語圏に関する専門知識と多文化共生力 ポルトガル語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 ポルトガル語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。 ①各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ②語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

中国語学科		中国語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 中国語教育の必修科目において中国語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、中国語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 中国語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における中国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 中国語圏に関する専門知識と多文化共生力 中国語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 中国語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ②語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究 	

日本語学科		日本語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 日本語教育の必修科目において日本語を体系的に学び、「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の4領域を総合的に修得すべく科目を配置します。授業内外でもフィールドワークを実施し、実践力の養成を図ります。 ③ 日本語圏に関する文化、文学を学んで専門知識を獲得し、日本をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の4領域の修得にあたっては、フィールドワークやインターンシップなどを円滑に進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 日本語専攻の学生としてふさわしい高度な文章作成能力を備え、専門知識を活かして、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 日本語圏に関する専門知識と多文化共生力 日本語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、獲得した知識に基づき、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 日本語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ②ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究 	

イタリア語学科		イタリア語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② イタリア語教育の必修科目においてイタリア語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、イタリア語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ イタリア語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、可能な限りアクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるイタリア語の修得にあたっては、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② イタリア語圏に関する専門知識と多文化共生力 イタリア語圏についての専門知識を獲得し、イタリアの社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 イタリア語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究 	

ロシア語学科		ロシア語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② ロシア語教育の必修科目においてロシア語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学科総合試験によって、ロシア語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ ロシア語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、可能な限りアクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるロシア語の修得にあたっては、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② ロシア語圏に関する専門知識と多文化共生力 ロシア語圏についての専門知識を獲得し、ロシアの社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 ロシア語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究 	

国際貢献学部

国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、学部基幹科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。

グローバル スタディーズ学科	
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学部基幹科目では、本学の建学の精神に沿う「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する人類的課題と、科学としての「多文化共生実現力」の基礎及び「コミュニティエンゲージメント (地域社会との関わり)」を修得します。 ② 専門科目の必修科目では、持続可能な「PAX MUNDI (世界の平和)」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得します。選択科目では、卒業後の進路を見据えた3つの領域を軸に、多文化共生実現力を支える社会科学への深い理解と最新のデジタル技術の修得に努めます。ゼミナール科目では、「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信します。 ③ グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義に基づく多様性を養います。 ④ 教養教育科目では、社会人として求められる実践的な教養教育をめざすとともに、広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができます。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 多文化環境の下で学び、複文化主義を体現したコミュニケーション力を身につけるため、専門科目の授業はすべて英語で行います。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的・自律的に課題に取り組む力 自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができます。 ② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と科学的洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができます。 ③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができます。 ④ 世界の平和を脅かす新しい諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用力 経済学、経営学、国際関係学といった社会科学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができます。
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、以下のとおりに評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告

グローバル 観光学科	
教育内容	<p>① 学部基幹科目では、本学の建学の精神に沿う「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する人類的課題と、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を修得します。</p> <p>② 専門科目の必修科目では、持続可能な「PAX MUNDI (世界の平和)」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得します。展開科目では、学際的な観光学の幅広い素養を育みつつ、卒業後の進路を見据えて、データ科学を基礎とする自分と社会の利益を両立させるビジネスや最新のデジタル技術、京都の本質について、体系的に学修することを可能とします。選択科目では、世界平和の構造とそれに向けた協力のあり方、まちづくりの実践や新しい観光について科学的に学ぶことができます。ゼミナール科目では、「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信します。</p> <p>③ グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義に基づく多様性を養います。</p> <p>④ 教養教育科目では、社会人として求められる実践的な教養教育をめざすとともに、広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができます。</p>
教育方法	<p>① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。</p> <p>② 「PAX MUNDI (世界の平和)」を支える多文化共生のための観光に対して、科学としての観光学の視点からの教育を行います。また、京都全体をキャンパスとすることで、複文化主義の基盤となる日本を正しく理解するための教育を行います。</p> <p>③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。</p>
学修成果 (育成すべき能力)	<p>① 主体的・自律的に課題に取り組む力 自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができます。</p> <p>② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から観光に関わる諸問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができます。</p> <p>③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができます。</p> <p>④ 世界の平和を支えるための観光をめぐる諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用力 経済学、経営学、社会学など社会科学を基盤とする学際的な観光学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができます。</p>
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、以下のとおりに評価します。</p> <p>①各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績</p> <p>②ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告</p>

京都外国語短期大学 **ディプロマ・ポリシー** (卒業認定・学位授与に関する方針)

キャリア英語科は英語の学修を通して、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としています。

その実現のために、語学力に加えて、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としています。

「構想するために必要な力」

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する(問題発見力・解決力)にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い(思考力・判断力)、創造性あふれる企画をまとめる(創造力・企画力)ことができます。

「実践するために必要な力」

自ら提案をまとめ(主体的に取り組む力)、必要な情報を取捨選択して分析し(情報収集力・分析力)、計画的に実行に移す(計画力・実行力)ことができます。

「共同するために必要な力」

立案した企画を効果的に発表し(プレゼンテーション力)、その重要性を相手に伝え(コミュニケーション力)、ルーツの異なる他者とともに実現していく(多文化共生力)ことができます。

上記の目標を達成すべく、2年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得した場合に短期大学士(英語)の学位を与えます。

京都外国語短期大学 **カリキュラム・ポリシー** (教育課程に関する方針)

キャリア英語科	キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、総合科目及び専門科目に加えて、教養科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる総合科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を受検し、語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 英語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治、経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。「Graduation Project II」では身につけた内容を英語で発表し、意見を交換する機会を持ちます。
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力 英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、自らの社会と文化を知り、世界に向けて発信することができます。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア